

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104191
法人名	有限会社スリー・ジー・ピー
事業所名	グループホームえくぼ
所在地	松山市西長戸町440番地
自己評価作成日	平成24年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年の4月から、通院方法や勉強会、職員の配置を変更しました。
まだまだ改善点はありますが、職員の労働環境の改善に努め、質の向上を目指し、より良い介護の実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●毎年、中学生の職場体験の受け入れや近隣小学校の児童との交流を続けておられ、児童が育てた花のプランターが事業所に飾られていた。又、児童の訪問時には、寸劇を見せてくれたり、一緒にゲームをする等して、楽しく過ごされており、利用者の笑顔もほころぶようだ。地域の方は、お茶会・民話の会・パン教室・絵手紙等、ボランティアに、それぞれ月1回訪問してくれている。夏の夕方に行う「えくぼ祭り」は、地域の方やご家族がチラシを配ってくださったり、屋台を担当してくださる等、多くの方が協力をしてくださり、100名ほどで盛大に行われている。
●職員は、「お墓参りに行きたい」等の利用者の希望や気持ちをご家族に伝えるよう支援されており、遠方までお墓参りにご家族と出かけられた方もいる。毎月、第二金曜日に、地域の方がボランティアで抹茶を点てに来てくれており、茶道の心得のある方には、着物を着てお茶を点てていただくこともある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームえくぼ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏 名 夏井 亮

評価完了日 24 年 5 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 事業所開設時に、法人代表と職員で話し合い、「のびのびと した生活の場所」「ひとりひとりを尊重した穏やかな暮らし」と いう理念を作成され、事務所や居間に掲示されている。さら に、季節毎にその季節の風物を描いた台紙に理念を貼り替 える等、理念の掲示にも工夫されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の小・中学校の訪問や、えくぼ祭り等で交流している。 近所の方とのあいさつや、山羊を通しての交流がある。	
			(外部評価) 毎年、中学生の職場体験の受け入れや近隣小学校の児童 との交流を続けておられ、児童が育てた花のプランターが事 業所に飾られていた。又、児童の訪問時には、寸劇を見せ てくれたり、一緒にゲームする等して、楽しく過ごされており、 利用者の笑顔もほころぶようだ。地域の方は、お茶会・民話 の会・パン教室・絵手紙等、ボランティアに、それぞれ月1回 訪問してくれている。夏の夕方に行う「えくぼ祭り」は、地域 の方やご家族がチラシを配ってくださったり、屋台を担当してく ださる等、多くの方が協力をしてくださり、100名ほどで盛大 に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 公民館等で行われている、認知症サポーター養成講座へ職 員全員の参加を目標にしており、ホームの存在をアピール する機会となればと思っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 現場職員も参加し、会で話し合われた内容を、直接職員が 知る機会としている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、偶数月の第一金曜日に決めて開催され ている。会議には、民生委員や元利用者のご家族、ボラン ティアの方、他事業所4ヶ所の職員の方や地域の小学校の 校長先生等と、ご家族が1名参加されている。会議では、利 用者の状況や行事報告、外部研修報告等を行い、メンバー の意見を聞いておられる。管理者は、今後、会議のテーマを 検討し取り組みたいと考えられ、消防署の救急救命の講 習をメンバーと一緒に受けたり、将来的には、キャラバン・メ イトの研修を受ける等、「一緒に勉強できるような会議」に取り 組み、「より多くのご家族に参加していただきたい」と考えて おられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会や地区の事業者連絡会を通して、情報の共有 を計り、個別の事案については、直接担当者と連絡をとるよ うにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、「外部評価の家族アンケートについて」報 告された際に、市の担当者から「家族と事業所が共通の認 識をもつ事が、苦情の軽減につながる。ケース記録を見ても らったり、家族の希望を聞く等してはどうか」等、アドバイスを いただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) できている。個人個人に合わせ、生活できるよう心掛けてい る。	
			(外部評価) 日中は、施錠せず、玄関やユニット間も自由に出入りでき るようになっている。利用者の中には、職員に「行ってきます」 と声をかけて、事業所周辺を散歩されたり、コンビニへおや つを買いに出かける方もある。職員は、外部研修等で身体 拘束について学んでおられるが、管理者は、今後さらに、 「勉強会の機会等で、言葉の拘束等について職員と話し 合っていきたい」と考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			勉強会を通し、虐待について身体面だけでなく、言葉による虐待もある事を学び、そうなりそうな時の対応を話しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			勉強会で詳しくは行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約書・重要事項説明書をただ読むのではなく、料金やサービスの期間など、時間をかけて説明するところと、そうでないところのメリハリをつけるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			手紙や電話で情報提供をし、コミュニケーションを計り、ケアプラン作成時にコメントを下さる方もおられる。第三者機関への連絡方法は契約時に説明し、ホーム内にもパンフレットを置いている。意見箱を設置しているが、利用される方はおられない。	
			(外部評価)	
			前回の外部評価を受けて、事業所通信「えくぼ まるかじり」を再発刊された。事業所の日常の風景や取り組み等の写真にコメントを添えて、ご家族に送付されている。又、毎月、ご家族に送付する書類とともに、法人代表者は利用者個々の様子をお手紙に書いて同封されている。運営推進会議時には、ご家族にも事業所が揃えた「防災対策用品」を見ていただき、「毛布もいるのでは?」「家族の協力も必要ではないか」という意見もいただいた。運営推進会議の議事録は、欠席したご家族に送付して、次の会議開催日も知らせ案内されている。	前回の外部評価を受けて、事業所では家族会の設置に向けて、ご家族にアンケートを行われたり、行事の際には、「家族顔合わせ」の時間を作り、意見をうかがう等された。結果、お忙しいご家族も多く、集まることに難しさもあり、事業所では、ご家族個別に意見を聞き取ることにされた。現在、ご家族からの意見は少なめのようなものであるが、たとえば、食事や外出、環境整備や接遇について等、事業所のケアサービスの質について具体的に問いかける等して、ご家族が意見や要望等を答えやすいように工夫されてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや職員アンケートであがった意見や提案に、可能な範囲で対応している。	
			(外部評価)	
		職員は、日頃のケアの中や毎月のミーティング時に、利用者一人ひとりのケアについて、意見やアイデアを出して話し合っておられる。認知症サポーター養成講座を順番に受講されたり、外部研修にも参加されている。4月からは、管理者が講師で、毎日10～15分間程度、テーマを決めて勉強会を行っておられる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員数を増やし、有給休暇を取得しやすい環境を作っている。また急な欠勤にも、可能な限り通常の人員数で対応するようにしている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			入社間もない職員には新人研修を勤務日に、他の職員は興味のある研修を休日に、経費は会社持ちで参加している。社内での勉強会の回数を増やし、新たな情報を素早く共有するようにしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			運営推進会の相互訪問を数か所と行っている。地区の事業者連絡会には積極的に参加し、サービスの質の向上につなげている。	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の話を聞き、安心される関係づくりに努力している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の意見をよく聞き、信頼関係を構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当ホームでできること、できないことをお伝えし、納得していただくよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々人の性格を把握したうえで、職員と共同で作業したり、利用者に任せたりして、生活の場を共に作っていくようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 通院に付き添って頂ける家族の方には、連れて行って頂き、そうでない方にも通院の相談をしつつ、症状の説明を密にするようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人馴染みの、写真や手紙を部屋に飾ったり、行きつけの散髪屋を利用したりしている。 (外部評価) 事業所の近くにご自宅がある利用者は、友人や同級生が訪ねて来てくれ、職員はお茶等をお出して、ゆっくり過ごせるよう気を配っておられる。職員は、「お墓参りに行きたい」等の利用者の希望や気持ちをご家族に伝えるよう支援されており、遠方までお墓参りにご家族と出かけられた方もいる。事業所のウッドデッキから見渡せる田園風景を「なつかしい景色よ」と、日課のように眺めておられる利用者も複数おられる。毎月、第二金曜日に、地域の方がボランティアで抹茶を点てに来てくれており、茶道の心得のある方には、着物を着てお茶を点てていただくこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			レクリエーションの機会を設け、利用者同士の交流を持てるよう心掛けているが、喧嘩になることもあり、試行錯誤をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			契約終了時に、今後ホームとしてできることをお話し、気軽に相談してもらえるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			買い物や外食でに外出したり、居室にお茶を置いておきたいとの訴えなど、できることには対応している。	
			(外部評価)	
			入居間のない利用者が「家に帰りたい」と言われる時には、ご本人の気持ちをご家族に伝え、ご自宅に数時間戻ってみる等して、ゆっくり事業所に馴染めるよう支援されている。「ビールが飲みたい」という希望がある利用者には、ご家族と相談されて、外食時や毎週土曜日の夕食時にビールを飲むよう支援されていたが、現在は健康状態のこともあって控えておられる。	さらなる理念の実践に向けて、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を引き出せるようなかわりを今後も工夫され、知り得た情報を蓄積して、介護計画に採り入れながら、利用者一人ひとりが、よりその人らしく暮らせる支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			入居時アセスメントや、本人、家族の方とのコミュニケーションを通して、把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			日々のバイタルチェック、入浴・更衣時の外傷の有無、本人とのコミュニケーションを通して、観察を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月のミーティングで職員間の情報共有を計り、かかりつけ医・家族・可能な方には本人の意向も加味し、作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画は、利用者個々の担当職員が「ご本人が困っていること」に注目して、原案を作成されており、職員で話し合っ て計画作成担当者がまとめておられる。月1回、モニタリングを行い、半年毎に見直しをされている。	現在、日々の介護記録上でモニタリングする仕組みも作っておられ、事業所では今後、さらに細やかなモニタリングを行うことで、利用者個々の現状に即した支援に取り組みたいと考えておられる。ご家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、「ご本人にとってどのような暮らしやケアが望ましいか」ということを一緒に考えたり、支援に協力いただけるよう、計画の作成に工夫されてはどうか。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			通院や外出、行事ごとなど、家族の方の協力を得ながら、可能な限り行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティア、小・中学生との訪問で、楽しみながら交流して頂くよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族の希望があれば個別のかかりつけ医に受診し記録に残し、適切な医療が継続されるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			職員が同行して協力病院を受診されたり、利用者の状態によっては、月2回往診を受けておられる方もある。協力医以外や専門医の受診は、ご家族に付き添っていただけるようお願いされているが、ご家族の都合によっては、職員が同行されている。歯科は、訪問診療を利用されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			洗濯物を持って行ったり、本人への面会を行い、入院による不安の払しょくに努めているが、個人情報保護法のため、十分な情報を頂けないこともある。前もって病院との関係づくりは行っていない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入居時にホームでできること、できないことを説明し、納得して頂いたうえで契約している。また実際にそのような状況が近くなれば、再度こちらの方針をお伝えし、かかりつけ医から本人の身体状況の説明をするようにしている。	
			(外部評価)	
			今年2月、事業所では、看取りを支援された。開設時からお二人目の支援となった。ご家族は延命治療を望まれず、食事を工夫して水分摂取に心がけ、ご家族も毎日のように訪問されて、協力医療機関とも連携して最期を看取られた。運営推進会議時、事業所の取り組みについて報告された。管理者は、4月から看護学校に通っておられ、看護の知識を毎日の勉強会等で職員に伝えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 最近は行えていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に数回、避難訓練を行っている。勉強会と運営推進会で取り上げ、地域の民生委員の方には協力をお願いしている。地区の事業者連絡会で、互いの備蓄状況の報告、防災マップ作りなどが始まっている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、6月の運営推進会議と併せて避難訓練を実施された。日中の火災を想定した避難訓練を行い、会議参加者に訓練の様子を見ていただいた。その際に、消防署の方から「火元によっては、庭に通じるウッドデッキが避難経路になることもあり、障害物を置かないように」等のアドバイスをいただいた。東日本大震災後に、ヘルメットを備えられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴や、特に排泄には声掛けの段階から気をつけているが、難聴の方もおり、声が大きくなってしまいうこともある。それぞれの介助は、気分を損ねない対応をしている。 (外部評価) 外部の方から、一部の職員の言葉遣いについて意見をいただいた際には、勉強会にて言葉遣いについて話し合われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 誕生日の食事メニューや、外食、飲酒、買い物など、本人の希望になるべく添えるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活上、すべてを個人のペースに合わせることはできないが、夜間起きてきたり、朝眠いため食事の時間を遅らせたり、できる限りの事は行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前から使っていたものや、家族の方に持ってきていただいたものなど、本人の好む服を着てもらっている。外出時の化粧などは本人の化粧品を使い、介助しつつ行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 音楽やラジオをかけ、昼食は職員と共に摂取している。おしぼり作りや大根おろし、モヤシの根取りや食器拭きは進んでいただいている。 (外部評価) 職員が1週間分ずつ献立を立てて、法人代表が調整されている。食材の買い出しは、代表が担当され、副食を両ユニットで分担し、職員が交代で調理されている。事業所の畑で採れた野菜等、新鮮な旬の食材の利用を心がけておられる。利用者のその日の希望で、お刺身を採り入れることもある。朝食は、利用者の希望もあり、週1～2回は、パン食になっている。食事中は、テレビを消して音楽を流しており、利用者から「美空ひばり」等のリクエストもあるようだ。食後に、男性利用者が「美味しかった。いつも美味しい」と話してくださった。利用者は、食事時に使用するおしぼりを巻いたり、野菜の下ごしらえ等をされている。調査訪問日には、職員と一緒に食器を拭く利用者がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が減った時は、かかりつけ医に相談し、対応している。食べきれなかった食事を検討し、量や大きさ、形体や別の食材に変えたりしながら、バランス良く摂取して頂くようにしている。むせのある方にはトロミ剤を使用し、スムーズな摂取を心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食前のうがい、毎食後の口腔ケアは必ず行い、できない方も職員が仕上げ・確認を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			昼間であれば、車椅子の方でも立つことができる方は、声掛けにてトイレ誘導をしている。身体的な自立度が下がる中で、排せつの自立を維持するのは難しい。	
			(外部評価)	
			排泄チェック表を確認して声かけの目安にされたり、「ごぞごぞ」する等、利用者個々の排泄のサインを職員で共有して、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			果物や乳製品、水分補給や体操・散歩などに取り組んでいるが、好き嫌いがあつたり、意欲がない利用者もあり、下剤の服用が増えている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴日は他の利用者もいる手前、制限せざるを得ないが、長湯の方でも時間は決めず、ゆっくりとくつろいでもらっている。	
			(外部評価)	
			入浴は、3日に1回を目安とし、午前、又は、午後からの希望に応じて支援されている。現在は、毎日入浴を希望する利用者はおられないようだ。利用者一人ひとりご自分の洗面器を用意されており、シャンプーや石鹸を入れて脱衣所に準備されている。ひとりで入浴する利用者には、職員が脱衣所で見守る等して支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			布団を干したり、シーツ交換をしたりして就寝環境を整え、体調に合わせ昼間でも休んでもらうよう声かけしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			処方時に日毎、食事毎に分け、その時点で間違いがないか確認している。薬箱に薬表を置いており、注意事項を即座に確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			えくぼ祭りや餅つき、敬老会やクリスマス会などの行事や、日々のレクリエーションやお手伝いにそれぞれ参加して頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			お墓参りや冠婚葬祭などは家族の方と協力し、毎月の外食のための外出は職員が行っている。	
			(外部評価)	
			気候の良い季節には、玄関先に出ておやつを楽しんだり、近所を散歩されている。月1回、外食する機会を作っておられ、利用者からは、回転寿司の希望が多いようだ。春には、花見弁当を持って近所の公園に、お花見に行かれたり、道の駅や奥道後の菊花展等、ドライブを兼ねて外出されている。又、温泉の足湯にも出かけられた。	散歩等を好まない利用者もあるようだが、「外に出てみようか」と思えるような雰囲気や場面作りに工夫を重ねていかれてほしい。介護度重度の利用者も、体調に配慮して外の風にも当たりながら暮らせるような支援に取り組まれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			家族と相談の上、お金を持っている方もいるが、あまり使用する要求・機会がない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			手紙を書かれる人はいない。本人宛に来れば説明し、手渡す。電話をかけたい希望があれば、その都度対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレ内のスイッチを気にされる方がおり、すべて外した。玄関から居室まで季節に合わせ飾り付けている。トイレの張り紙も大きくしている。	
			(外部評価) 事業所のウッドデッキから見渡せる田園風景を「なつかしい景色よ」と、日課のように眺めておられる利用者も複数おられる。毎朝、事業所の内・外、前の道も掃除して下さる利用者の方がおられる。玄関や食堂のテーブルには、お花好きの利用者のご家族が持って来てくださった紫陽花等の花が飾られていた。昼食後は、ソファでテレビを見る等、個々がお好きな場所で過ごしておられた。居間に続く畳のコーナーは、お雛様を飾ったり、雨の日は洗濯物を干したりするスペースになっているが、スペースを工夫して利用者の居心地のよい空間作りに活用されてはどうか。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各場所でくつろげるように椅子を配置し、自由に過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テレビや仏壇、たんすやソファなど、自宅で使用していたものを持ってきていただいている。家族の写真や贈り物を飾り、本人の空間である事を認識してもらうようにしている。	
			(外部評価) 毎朝、30分間の居室の掃除時間を設けておられ、利用者は職員と一緒に掃除を行っておられる。利用者の状態により、タンスの引き出しに、タオルや靴下・下着等のラベルを貼り、ご本人にわかるようにしている方もある。テレビを持ち込んでおられる方は、夜、ベッドに横になってお好きなテレビを楽しまれている。又、居室に化粧品を揃え、お化粧されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 歩行の不安定な方には、手すりを持つよう伝え、介助・見守りを行っている。	